

令和2年度 第2回学校運営協議会 議事概要

開催日：令和2年11月2日（月）

時 間：14：40～16：40

会 場：深沢高等学校会議室

司 会：大谷総括教諭、村田副校長

記 録：学校運営協議会事務局員

<出席委員>

橋 口 直 子 委員（会長）
小日山 理 香 委員（副会長）
池 田 実 委員
植 坂 友 理 委員
里 見 正 憲 委員
嶋 村 勝 美 委員
瀬 谷 公 重 委員
萩 谷 英 明 委員

（委員総数9名、欠席1名）

<説明のための出席事務局員>

村 田 克 也 副校長
牛 島 操 教頭
高 野 真 一 事務長
大 谷 英 弘 総括教諭
加 藤 玲 子 総括教諭
北 澤 健 総括教諭
山 本 英 夫 総括教諭

（事務局員総数8名、欠席1名）

<公聴者>

新型コロナウイルス感染予防のため、今回は公聴席を設けませんでした。

<議事等の概要>

1 授業参観

<校内を移動し、6校時の授業を参観していただいた。>

2 橋口会長あいさつ

新型コロナウイルス感染拡大の影響で深沢高等学校も4月以降の臨時休校となっていたが、リモート授業などでの学校側の対応が早く、このような中でも安心することができた。学校運営協議会の会長としてよろしく申し上げます。

萩谷校長あいさつ

4月に着任しました。初めてお目にかかります。穏やかでよい学校に来たとの思いです。今後も安全安心な学校、生徒にとっても教職員にとってもストレスの低い学校づくりを目指して、学校運営協議会委員の皆さまの御意見を反映していきます。

3 今年度の学校運営についての中間報告

資料1 年間行事計画について 村田副校長

新型コロナウイルス感染防止のための臨時休業で多くの行事変更があった。6月の体育祭が9月の文化祭と一緒に、Fukasawa Festival として実施、修学旅行も実施した。詳しくは後程。一方でインターンシップや宿泊防災訓練など、中止や縮小したものもあった。

資料2 教員の授業研修について 牛島教頭

深沢高等学校では教職員が自主的に授業力向上のための研修を行っている。県教育委員会からの研究指定である科目「公共」については、公開研究授業を予定している。英語科の教員が英語教育アドヴァンスト研修に選ばれて参加し、これまで以上に授業力を向上させている。

資料3 Fukasawa Festival について 生徒会部活動支援グループ 山本総括教諭

臨時休業の影響で6月の体育祭が中止となり、3密を避ける観点から9月の文化祭も見直しが必要になった。新たに Fukasawa Festival として計画し、9月に実施し成功した。午前中に体育祭に近い内容で全員参加とし、午後からは文化祭の後夜祭に近い内容を体育館で行い、事前に参加登録した300人弱の生徒が参加した。アンケート結果から生徒の満足度が高かったことが分かる。

資料4 33期生（現3年生）進路活動途中経過について キャリア支援グループ 北澤総括教諭

全国的に大学入試センター試験の受験者が減少している中で、本校の受験者は増加している。他校では推薦入試や総合型入試を選ぶ生徒が多くなっていると聞かれる中で、本校ではそうっていない。一般入試に向けて学力を伸ばしていこうとする姿勢が見られる。

資料5 34期生（2年生）修学旅行の報告 2学年 北澤総括教諭

新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの高校が修学旅行を中止や延期した中で、ほぼ予定どおりに実施することができた。泊数を1泊減らしたこと、民泊をやめてホテル宿泊だけにしたこと、1クラス40人をバス2台に分けたこと、行程中の消毒を徹底したことなどで、感染者を出さずに無事に終了することができた。制約の中でも、震災研修、防災学習という本校の修学旅行の目的はブレることなく達成した。

萩谷校長：本校の取組みが参考になればよいと考え、工夫した点の詳細を県教育委員会に報告した。この件では教育委員会からの感謝と称賛の言葉をいただいている。

資料6 「生徒による授業評価」について 広報地域連携グループ 大谷総括教諭

科目ごとに4段階の評価をおこない、最も高い値に色付けした表である。学年が上がるにつれて、評価が上がっている傾向が明確に読み取れる。上級生ほど主体的に目標をもって学習に向かっているということだと分析している。

資料7 学校説明会の計画について 広報地域連携グループ 大谷総括教諭

11月14日（土）午前・午後および12月12日（土）午前に本校を会場にして計画している。

資料8 教育相談活動報告 生徒指導グループ 加藤総括教諭

新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業があったにもかかわらず、カウンセリングの利用件数は増加している。ただし件数の増加が悪いことだとは考えていない。カウンセリング利用に対する生徒や保護者の認識が進んだ結果だと考えている。

資料9 地域課題への対応について 生徒指導グループ 加藤総括教諭

近隣からの苦情では、登下校時のマナーに関するものが増えている。また、近隣商業施設への保護者の駐車に対する苦情対策として、職員を駐車場に派遣して防止している。

資料10 学則等の見直し状況について 村田副校長、生徒指導グループ 加藤総括教諭

厳しすぎる、細かすぎると言われる校則について社会的な関心が高まり、県教育委員会からも見直しをするように指示があったが、本校のものは決して厳しすぎるものではない。むしろ生徒の自主性を信頼していると言えよう。学則と生徒心得を生徒手帳に載せている。

学校生活の心得について、今年度からの改定は2点ある。指定の上履きから、学年色の指定だけにして量販店で買えるものにした点、制服の男女表示をやめた点である。今後も生徒の意見を聞いていくが、大きな改定は考えていない。

資料11 職員メンタルヘルス（ストレスチェック）結果 牛島教頭

生徒も職員も穏やかな学校生活を過ごしており、全国平均や全県立学校の平均に比べてストレス値が低い。

資料12 学校運営協議会設置要綱の一部改定について 村田副校長

学校運営協議会設置要綱第12条を改訂し、地域連携部会の業務に学校施設開放業務を加えたい。学校施設開放の業務内容が学校運営協議会の職務に重なる部分があるからである。詳しくはこの後の地域連携部会で説明する。

4 学校評価部会での協議

・事務局員村田副校長：学校評価部会の始めに部会長を選出願いたい。部会長は委員の互選により選出されるが、どなたかお引き受けいただけるか。どなたもいらっしゃらなければ、県立高校の学校経営に御理解の深い里見委員にお願いしてよろしいか。（委員からの拍手で承認）

・司会大谷総括教諭：各委員の方から本日の授業観察の感想を含めて、本校の学校運営についてのご意見、ご質問を賜りたい。

里見委員：参観した授業いずれも落ち着きがあった。教員の言葉遣いも丁寧で、教師と生徒との信頼関係が感じ取れた。勤務先の桜美林大学でもコロナ禍でオンライン運用での授業が続いた。大学生も秋から「やっと学校生活が始まった」というところだ。

植坂委員：東京大学高大接続センターに籍を置く。宍戸校長時代から深沢高校に来ている。

- ・今日はまとまった説明を聞けて、学校教育の充実が感じられた。
- ・各校で行事が中止される中で工夫して積極的に行っており、生徒の感想も良い。生徒と一緒にやって楽しんでる様子である。生徒の自立性が高いということか。
- ・教員の有志による授業プロジェクト研修がユニークであり、授業評価の高まりで成果が見えている。具体的にどんな工夫で成果が出ているのか知りたい。
- ・生徒心得（学校生活の心得）では「学び方」を教えている。すてきななあと思う。このような深沢高校の特色を積極的に発信してほしい。

小日山委員（副会長）：校長を務めている手広中学校でも臨時休業の後、6月から分散登校が始まった。

- ・1クラス30人なので分散して15人程度だが、職員はその都度の消毒に追われて疲弊した。だが、15人授業は学力の定着が良かった。十分に目が行き届いたということだ。
- ・修学旅行は飛騨高山で実施した。バスで現地に乗り付け、その中だけで過ごし、お土産の販売も生徒用に特設会場を用意してもらったなど、現地の協力がありがたかった。
- ・授業評価で最低の「1」が無いのがすごい。学習内容が伝わっている、ということなのだろう。

橋口委員（会長）：PTA会長として、県内高校のPTA会長とSNSで繋がっている。

- ・その情報網の中で、新型コロナウイルス感染拡大の影響での学校行事の中止・縮小についてのアンケートがあり、他校では修学旅行が中止になっていることを知った。本校の工夫と成功裏の実施の状況について情報発信したことが、深沢高校の取組みとして県内で評判が高い。
- ・近隣商業施設への保護者の駐車に対する苦情対策として、職員を駐車場に派遣して防止しているとの報告を聞き、PTAとして保護者への働きかけが必要だと思った。
- ・コロナ禍で、家庭内での問題が報じられている。PTAとして力になりたいと思う。

池田委員：授業が落ち着いていた。今日は学校現場の様子が見られてよかった。Fukasawa Festival も見てみたかった。

- ・鎌倉西ライオンズクラブでは、新川の河川清掃を、深沢高校の生徒ボランティアの協力を得て例年やってきたが、台風で中止となった年もあり、今年はコロナ禍で中止した。中止すると草の繁茂がすごい。再開したら是非協力してほしい。

嶋村委員：片岡幼稚園の理事長をしている。幼稚園には深沢高校の生徒がボランティア活動で来ていた。子どもたちは高校生相手に全力で当たっていくことができる。高校生も受け止めてくれ

る。コロナ禍が治まり、またボランティア活動に来てくれると嬉しい。

・学校評議員会の時から来ている。生徒によるトラブルの多い時期もあったが今は治まっている。教員の努力が実っている。授業も落ち着き、校舎がきれいだ。地元の誇りである。

瀬谷委員：鎌倉市こどもみらい部次長兼青少年課長をしている。

・新型コロナウイルス感染拡大の影響で臨時休校中の生活について、鎌倉市として、深沢高校を含む鎌倉市内4校の県立高校と大学生に依頼し、青少年対象のアンケート調査を行った。

・コロナ禍で家庭に留まったことで、学習面や進路面での不安が目立った。一方で、家族と仲よくできた、友人と会えないからこそ仲が深まった、という良い面での回答も見られた。

・今日の参観で、深沢高校では安全安心な学校が実現していることを理解した。

5 <キャリア教育部会>と<地域連携部会>に分かれての協議

<キャリア教育部会>での協議

・授業研究にかかるプロジェクトの取組を継続して行っているのが素晴らしい。

・「生徒による授業評価」は、授業に対する子どもの声が反映され、より良い授業への重要なデータである。授業研究のプロジェクトが発足して3年目になるそうだが、特に3年生の、授業に対する評価の高さが研究成果として表れている。

・自発的に、教科を越えて授業研究している学校は珍しい。他県でも教科横断型の研究をしている高校があるので、オンライン等で情報共有するとよい。

・今後、評価の在り方について研究するとよい。

・上級学校になるにつれ、ワクワクさせる授業よりも、受験を意識した知識重視の授業授業が多くなる。

・いつも生徒に目標を与え続け、生徒の取組が成果となり、社会に出て活躍できる人に育てたい。

・昨年度は「生徒に考えさせる」研究であったが、現状はどうか。

→コロナ禍のため、グループで考え意見を述べ合ったりする授業は少ない状況だが、個別に考えさせ、意見をまとめる等、考えさせる指導の工夫をしている。

・外部の人材を取り入れた授業はあるのか。

→上級学校による模擬講義や模擬授業は毎年実施している。今年はコロナ禍の影響で実施が難しいが、外部から新しい風を入れ、従来型の授業だけでなく、新しい授業に換えていくことは大切である。

<地域連携部会>での協議

・制服について、詰襟は男女差がはっきりしている。ブレザーへの見直しは考えていないのか。

→生徒アンケートでは、多くの生徒が今の制服を気に入っている。今のところ見直しの方向ではない。

・カウンセリングのその後はどうしているのか。

→スクールカウンセラーとの面談からは、スクールソーシャルワーカーやケース会議につないでいる。スクールカウンセラーに聞いてもらって安心する例もある。

- ・不登校の2件はどういうものか。
→いずれも中学まで不登校経験のものであり、高校での心機一転を図ったがやはり来られない。
- ・近隣からの苦情はどういうものが増えているのか。
→これも新型コロナウイルス感染拡大に関する警戒感からであろう。バス乗車内での生徒のおしゃべりについての苦情である。
- ・災害避難所の対策について、新型コロナウイルス感染拡大防止の視点でどのように取り組んでいるか。
→地震や水害などの非常時に本校の体育館を避難所とすることになっているが、その運営は鎌倉市の職員が当たることになっている。

6 全体会議

<キャリア教育部会>での協議内容報告 牛島教頭

<地域連携部会>での協議内容報告 村田副校長

7 萩谷校長あいさつ

今日は委員の方々から御意見を伺い、適正な評価をいただきありがとうございました。第3回もよろしく願いいたします。

小日山副会長あいさつ

新教育長のもとで鎌倉市でもコミュニティスクールが始まる予定である。知識の記憶力と情報処理能力では、人間はAIに適わない。従来型の授業からの脱却が課題である。AIに目的を与える、人間を育てたい。同じ地域の学校として、未来を担う子どもを育てたい。今後ともよろしく願いいたします。

以上